



MIEKO HIROTA

76/45

■SIDE 1

- | | |
|--|-------|
| 1. ユーアーザ・サンシャイン・オブ・マイ・ライフ You are the sunshine of my life (S. Wonder) 76/sec Multi 24ch D.C. | 4'06" |
| 2. フライング・ホーム Flying home (Goodman-Hampton-Robin) 76/sec 2chr | 2'56" |
| 3. ジョジョ Jojo (D. Foster-D. Lasley-B. Scaggs) 76/sec 2chr | 5'30" |

■SIDE 2

- | | |
|---|-------|
| 1. いそしぎ The shadow of your smile (P. Webster-J. Mandel) Digital | 3'44" |
| 2. マイ・ファニー・ヴァレンタイン My funny valentine (R. Rogers-L. Hart) 76/sec 2chr | 4'39" |
| 3. マイ・ラヴ My love (P. McCartney) 76/sec 2chr | 4'47" |

ニュー・ウェイヴ・バンド/コーラス: ギャル(SIDE1-③)/編曲: 鈴木宏昌(SIDE1-①, SIDE2-③) 直居隆雄(SIDE1-②③, SIDE2-①②)

制作にあたって

DAM推進委員会

日頃は第一家庭電器をご愛顧頂きまして誠にありがとうございます。皆様にささえられて、DAMオリジナル録音も第8作目となりました。

今回はジャズやポップスそしてソウル・ミュージックまで、確かな歌唱力とスケール感抜群の実力派シンガー弘田三枝子さんの登場です。弘田さんは最近、日本だけではなくジャズの本場米国でもトップ・アーティストとの共演盤を製作して高い評価をえています。選曲にあたっては、弘田さんのはば広いレパートリーの中から弘田三枝子さん、そして今回、アレンジを担当していただいた直居さん、それとスタッフ一同が集って、弘田さんの持味を十分に活かしながら、オーディオ・チェックのしやすさと、楽しんで何度も聴いていただける内容という点を考えて、得意なジャズのスタンダードやスティービー・ワンダーのヒット曲、ウィングスのロックやなつかしのスクリーン・ミュージック、そして弘田さんの希望で今もっとも新しいフュージョンからボズ・スキャッグスの「jojo」とバラエティに富んだ構成で、どなたにも楽しんでいただける内容にしたつもりです。

またアレンジも、ギター奏者でおなじみの直居さんとキーボード奏者として有名なコルゲンさんこと鈴木宏昌さんに、それぞれ素晴らしい味つけをしていただきましたので、アレンジのおもしろさも楽しんでいただければと思います。録音はダビングをおこなった「jojo」をのぞいてアナログ76cm/sec 24チャンネル・マルチ録音とデジタル録音を同時におこない聴き比べた結果、「いそしぎ」はクリアーで美しくしあがったデジタル録音を採用し、それ以外はアナログ録音が、それぞれの曲によりふさわしいということになりました。今回は今まで一度も制作したことがなかった「マルチ (76cm/sec 24チャンネル) よりダイレクト・カッティング」という新しい試みを、ミキサーの渡部氏にお願いして挑戦していただきみごとに成功いたしました。「マルチ (76cm/sec 24チャンネル)」のデッキからコンソールでミックスタウンしたものをそのままカッティングをおこなう方式で、クリアーで抜群のS/N比の良さを楽しんでいただければと思います。今までDAMの録音は同時録音をすべておこなってきましたが、「Jojo」「Flying home」はアレンジのおもしろさを重視して初めてダビング録音もおこないましたので、同録とちがった雰囲気をお聞きくらべて下さい。バックの演奏も出来る限りアコースティック楽器を使用して、音の立上りや透明度を大切にしたいつもりです。管楽器の張りや輝き、弦楽器のふくらみなど、オーディオ・チェック・ポイントはたくさんあると思いますが、なんと言っても弘田さんのボーカルです。低域の厚みのある豊かな声量と抜群のパンチ力ある歌声など、並の歌手ではえられない声の良さを味わって下さい。また、ディスクには従来からのグループガード付ディスクよりターンテーブルとの密着性を大巾にアップした全面平らなフラット・ディスクを使用し、最新プレス技術も駆使しました。

なおこのアルバムの制作にあたり、関係各位の皆様にご多大なご協力をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。

最後に、このレコードが会員の皆様のお愛聴盤の一枚に加えていただき、末長くオーディオ・チェックにもご使用いただければ幸いです。

弘田三枝子プロフィール

東京は世田谷区に生まれる。子供の頃から歌が好きで、FENばかり聴いていた。この頃、劇団こまどりにて劇も勉強する。ティープ釜范氏に師事し、米軍キャンプのオーディションに合格して、キャンプで歌うことになる。プロへのきっかけである。

- 1961年/東芝レコード専属となる。
デビュー・シングル「子供じゃないの」
- 1962年/シングル「ヴァケーション」「思い出の冬休み」等。
- 1963年/シングル「ビー・マイ・ベイビー」「悲しきハート」ほか
- 1964年/コロムビア・レコードへ移籍。
- 1965年/日本でははじめてニューポート・ジャズ・フェスティバルに出演。ニューヨークで日本人でははじめての外国録音。
アルバム「New York Miko」(弘田三枝子<Vo>、グラディー・テート<Ds>)、ベン・タッカー<Bs>、ヒリー・テイラー<Pf>～ボビー・スコット<プロデュース>)
- 1966年/シングル「渚のうわさ」
- 1969年/シングル「人形の家」が大ヒット。
- 1971年/シングル「私が死んだら」
- 1973年/ブルガリア音楽祭にゲスト招待。50分のワンマン・ショーがTV放映される。
- 1974年/渡米、シカゴ・プレイボーイクラブ出演、好評を得る。
- 1976年/5月、中野サンプラザ・ホールにてリサイタル。
アルバム「マイ・ファニー・バレンタイン」「ジャズタイム」
- 1977年/6月渡米。コロムビア・レコードとの契約解消。自主制作アルバム「A STEP ACROSS THAT LINE」をアメリカで録音。アメリカではCBS、日本ではCBSソニーより発売。
- 1979年/7月に帰国。ラフォーレ原宿にて帰国コンサート。
- 1980年/2月、小沢音楽事務所グループの(株)グローバル・レコードに所属。
9月に東芝EMIよりシングル「ミスター・シャドウ」を発表。

曲目解説 (おまけ)

A-1 You Are The Sunshine Of My Life

(ユー・アー・ザ・サンシャイン・オブ・マイ・ライフ)

わずか13歳で、1963年に初ヒット (全米第1位)「フィンガーティップス・パート2」を発表、盲目の天才黒人歌手とさわがれたスティービー・ワンダーが、現在のスーパー・スターとしての地位を確立する足がかりとなった作品である。

1972年後半「Music Of My Mind」に次いで発表したアルバム「トーキング・ブック」収録作品。全米第1位を記録したファースト・シングル「迷信」に続いて、1973年の春にシングル・カットされ、3月に全米ヒット・ランクに初登場、5月半ばにはこれもまた第1位を記録した。

軽いリズム、メロディをもったポップな作品である。

A-2 Flying Home (フライング・ホーム)

スイング・ジャズの巨人、ベニー・グッドマンがライオネル・ハンブトンとコンビを組んで1930年代に作った曲。

もともとインストゥルメンタル・ナンバーだったが、後にシド・ロビンによって歌詞が添えられ、ジャズ・ヴォーカリスト達によって歌われ、よりポピュラーな作品となった。

オリジナルは1938年、ハンブトン、ジーン・クルーバ、テディ・ウィルソンらをメンバーとしたベニー・グッドマン・クインテット時代の演奏で、後にこの作品はハービー・マン、チャーリー・クリスチャン、テッド・ヒース・オーケストラなど数多くのジャズ・アーティストの演奏レパートリーに加えられている。

A-3 Jojo (ジョジョ)

「ダウン・ツウ・ゼン・レフト」(1977年)に次いで、3年ぶりに発売されたボズ・スキャッグス通算で8枚目のアルバム「ミドル・マン」収録曲である。この作品はボズ、そしてデビッド・フォスター、デビッド・レズリーの3人によって作られ、「ブレイクダウン・デッド・アヘッド」に次いで、セカンド・シングルとして発表され、全米ヒット・ランクに登場している。

洗練されたポップ・フィーリングを持ったボズらしいモダンな作品である。尚現在は映画「アーバン・カウボーイ」からの作品「燃えつきて」がヒット・ランクを上昇中、彼の最新ヒット・ナンバーとなっている。

B-1 The Shadow Of Your Smile (いそしぎ)

ジョニー・マンデルとポール・フランシス・ウェブスターがペンをとった作品。1965年公開のエリザベス・テイラー、リチャード・バートン主演映画「いそしぎ」の主題歌である。1966年にはこの作品、アカデミー映画主題歌賞を獲得している。

洒落たセンスのジャズ・フィーリングを持ったこの曲は、映画のヒットとともに多くのアーティストのレパートリーに加えられ、レイチャールズ・シンガーズ、アストラッド・ジゼルベルトなど、それぞれのアーティストの持ち味を生かした作品に生まれ変わっている。オリジナル作品の持つさわやかなメロディと落ち着いたムードは、ひとときこの曲を印象深いものにしていく。

B-2 My Funny Valentine (マイ・ファニー・ヴァレンタイン)

ポピュラー・ミュージック数々の名作を世に送り出したリチャード・ロジャース&ロレンツ・ハート、コンビのペンになる作品。

オリジナルは1937年のミュージカル作品「ベイブス・イン・マイ・アームズ」のために作られ、広く一般に紹介されたが、今日のようにポピュラー・スタンダード・ナンバーとして親しまれるようになったのは、1950年代に入ってからである。そのきっかけはフランク・シナトラ、キム・ノヴァック出演の1957年の映画「夜の豹」で、劇中ではノヴァック自身の歌が聞かれる。

シナトラ自身もすでにこの作品を1953年に録音、その他数多くのジャズ、ポピュラー歌手によって歌いつがれている曲である。

B-3 My Love (マイ・ラヴ)

ビートルズを離れてからのマッカートニー通算で4枚目、ウィングスとしては2枚目にあたる1973年発表のアルバム「レッド・ローズ・スピードウェイ」収録曲。勿論ポール自身のペンになる彼が最も得意とする甘く、メロディアス

なポップ・バラードである。

1972年末に発表した『ハイ・ハイ・ハイ』に続いて、先のアルバムから唯一のシングル・カット。1973年4月に全米ヒットランクに初登場、そして2ヶ月後の6月には『アングル・アルバート／マルセイ提督』(1971年)に続く、ビートルズをはなれてからのマッカートニーにとって2枚目の全米ナンバー・ワン・ヒット・シングル・レコードとなっている。

今回のDAMオリジナル・レコードはポップス・ファンなら誰でも知っている弘田三枝子の登場です。僕の場合、弘田三枝子というとまっ先に“VACATION”や“子供じゃないの”といった、いわゆるオールド・ポップスが頭に浮かんでくるのですが、それより少し後で彼女を知った人達は“人形の家”なんかを思い出すことでしょう。彼女を知るきっかけとなった曲が人によって色々あるというのは、それだけ多くのヒット・ナンバーを持つという証しなのだけれど、ここしばらくヒット曲を放っていないので少々さみしい気がしていました。しかし、このアルバムを吹き込む直前に彼女自身の作曲による“ミスター・シャドー”というシングル盤をリリースし、それがヒットの兆しを見せているというから、またまた新しいファンが増えることでしょう。

話は変わりますが、今回のこのアルバムもいつも通りオーディオ・マニアにとって大変興味深い趣向が盛り込まれているのはいうまでもないこと。それに加えて収録曲も巾広く、いわゆるジャズのスタンダード・ナンバーやスティービー・ワンダー、ボズ・スギャッグスといったポップス系のプレーヤーの作品も収められているから音楽ファンにとっても楽しめるものとなっています。

現在ポップス系のアルバムは、マルチ・トラック・レコーダーを駆使しオーバー・ダビングを繰り返すという造り方が一般的です。しかし、そんなどちらかというと安易なレコード造りの方法に対し批判的な意見を持つ人も多様です。(これはフュージョンやテクノ・ポップといった音楽に対しては正当な批判とはいえませんが、)だからといって、一発録りを強いられるダイレクト・カッティングなどが最良の方法といい切れるものでもないと思います。結局録音するジャンルや音楽性、楽器編成などによって使い分けるべきものと考えます。

その点、このアルバムは24ch・76cm/secのマスター・テープに録るところまでは普通のレコードと何ら変わることはないのですが、それ以降の過程で見るべき点があります。レコーディング時にマルチ・トラック・レコーダーと共にデジタル・プロセッサにも記録し、トラックダウンも2ch・76cm/secとデジタル・マスターの2つを作り、以上3つの中から慎重に比較試聴した結果、最も曲想にマッチしたものをカッティング・マスターに採用するという手間のかかる方法をとっているのです。また、中で最も興味を引かれたのはA-1の“ユー・アー・ザ・サンシャイン・オブ・マイ・ライフ”なのですが、これは24chマスターのトラックダウンを行いながら直接ラッカー盤に刻み込むというトラックダウン・カッティングとか76cm/secマルチ・ダイレクト・カッティングとも呼べる方法。これは僕の知る限りでは初めての試みだと思う。結果として4つの方法からセレクトしたことになったのだが、先に触れたデジタル・マスターリングは今回の場合、余り効果がなかったため採用せず76cm/secマルチ・ダイレクト、2ch・76cm/secマスター、ダイレクト2chのデジタル・マスターの3つの方法を組み合わせたものがディスクに刻み込まれることになった。

こうして書いてくると、いかにも色々な方法を寄せ集めた興味本位のアルバム造りと受けとられそうだが、これはあくまで結果であり、ディスクとなって再生した時に最良な効果を得られることを目的としたものというのはトラッ

クダウンとカッティングを見学した僕が目で見ても明らかなこと。

色々なマスターリングをこの一枚のアルバムで聴けるとなると、オーディオ・ファンとしてはどうしても、その辺の比較をしたくなってしまおうと思いますが、僕としては音楽そのものを心から楽しんで欲しいと思います。

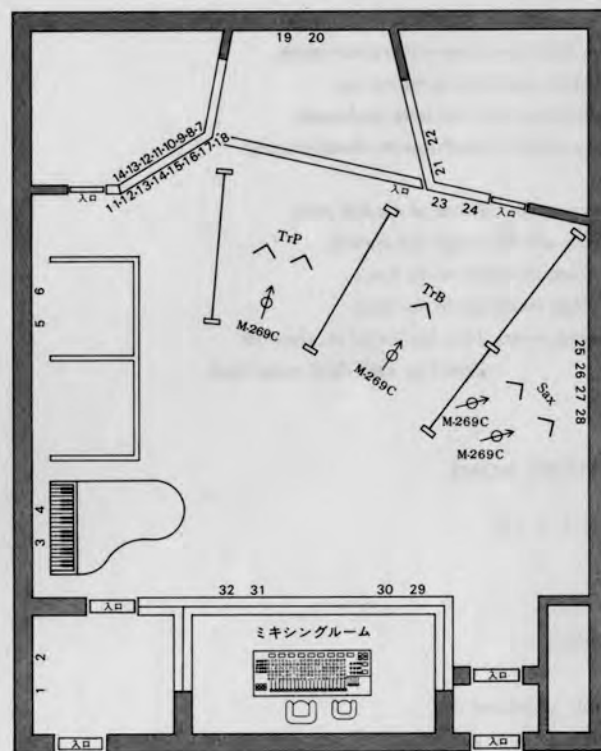
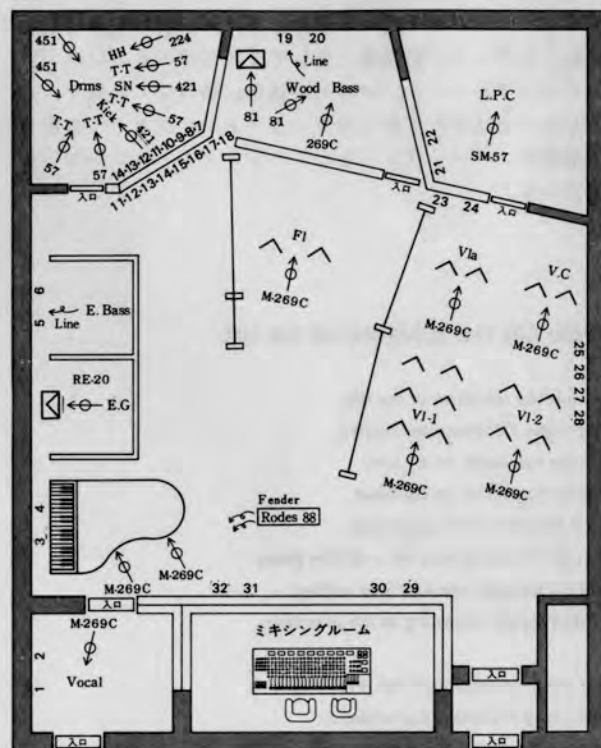
一通り聴いて感じたリスニング上のポイントとを少々述べたいと思う。

まずはヴォーカルなのだが、A-3とB-1で比べて欲しいのです。A-1は最新流行のサウンドに仕立てられていて、各楽器にも色々な音造りがされているのですが、ヴォーカルにはオーラル・エキサイターというエフェクターがつかわれている。このキカイどういった効果があるのかというと、ヴォーカルだけレベルを上げるとバックが小さくなってまるで歌謡曲みたいになるわけで、逆に全体のレベルに合わせるとヴォーカルが他の音に埋れてしまいバランスが悪くなる。そんなときにヴォーカルにオーラル・エキサイターをかけるとくっきりと声が浮び上ってくるという便利なもの。このキカイは他のエフェクターと違ってちょっと聴いただけで判るというものではないけれども、A-3の様な大編成をバックにした時には効果が高いので何も加工していないB-1などと良く聴き比べれば、なるほどと思うはず。

また、パーカッションやストリングスなどがどこに居るかで定位感のチェック、バスドラやスネア・ドラムでダンピング・ファクターやウーファーのトランジェント特性のチェックができるだろう。それから明らかに新しい音造りのされたA-3のドラム、特にハイハット・シンバルの質感が他の曲と違って聴こえるかどうかシステム全体のチェック・ポイントになるでしょう。

カッティングはいうまでもなくハイ・レベル・カッティング、それも溝と溝とが触れあうスレスレ、これ以上は無理というところまで追い込んであるから、カートリッジのトレース能力をみるのに格好のソースといえるだろう。

最後になってしまったけれど外観上の特長として、グループ・ガードのないフラットなディスクという点。これはDAMオリジナル・レコードとしては初めてだが、ターンテーブルとの密着性を高めレコード盤に生ずる不要な共振をなくすと同時にリードイン時の不快なノイズをも追放してくれるもの。音楽を気分良く聴きたい僕達としてはまことに有難い配慮といえるだろう。



A-1 ユー・アー・ザ・サンシャイン・オブ・マイ・ライフ (鈴木宏昌編曲)
(76cm/sec 24ch D.C.)

Drs. 渡嘉敷祐一
EG. 松木 恒秀
EB. 岡沢 章
EPf. 鈴木 宏昌
LPC. 納見 義徳
Trp. x 2 羽鳥幸次、白山文男
Trb. 新井 英治
T.Sax Jake I コンセプション

A-2 フライイング・ホーム (直居隆雄編曲)
(76cm/sec 24ch)

Drs. 武田 光司
CB. 高水 健司
Pf. 鈴木 宏昌
EG. 直居 隆雄
Sax. 村岡 建

A-3 ジョジョ (直居隆雄編曲)
(ダビング 76cm/sec 24ch)

Drs. 富樫 春生
EB. 大仏 健二
(DB) EG. 直居 隆雄
(DB) KB. 富樫 春生
PC. 納見 義徳
Trp. 数原 晋
Trb. 三田 治美
(DB) Cho. ギャル

B-1 いそしぎ (直居隆雄編曲)
(デジタル)

Drs. 武田 光司
CB. 高水 健司
Pf. 鈴木 宏昌
G. 直居 隆雄
Elgh. 村岡 建

B-2 マイ・ファニー・バレンタイン (直居隆雄編曲)
(76cm/sec 24ch)

Drs. 武田 光司
CB. 高水 健司
Pf. 鈴木 宏昌
EG. 直居 隆雄
Flg. 数原 晋
Strings 加藤アンサンブル

B-3 マイ・ラヴ (鈴木宏昌編曲)
(76cm/sec 24ch)

Drs. 渡嘉敷祐一
EB. 岡沢 章
EG. 松木 恒秀
EPf. 鈴木 宏昌
Fl. Jake, 相馬 允
Strings トマト・ストリングス

MIC アレンジ



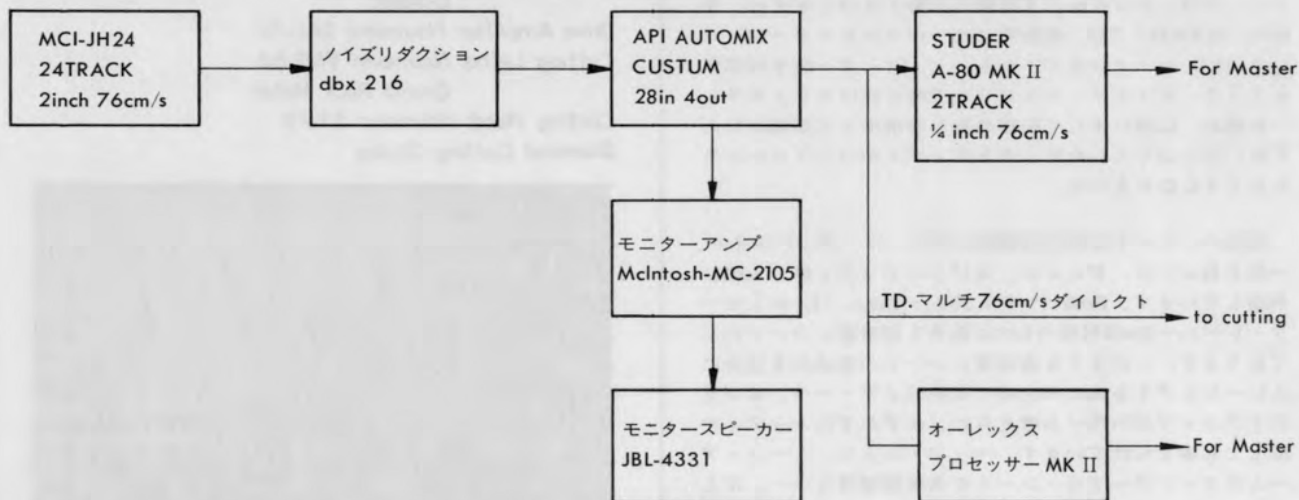
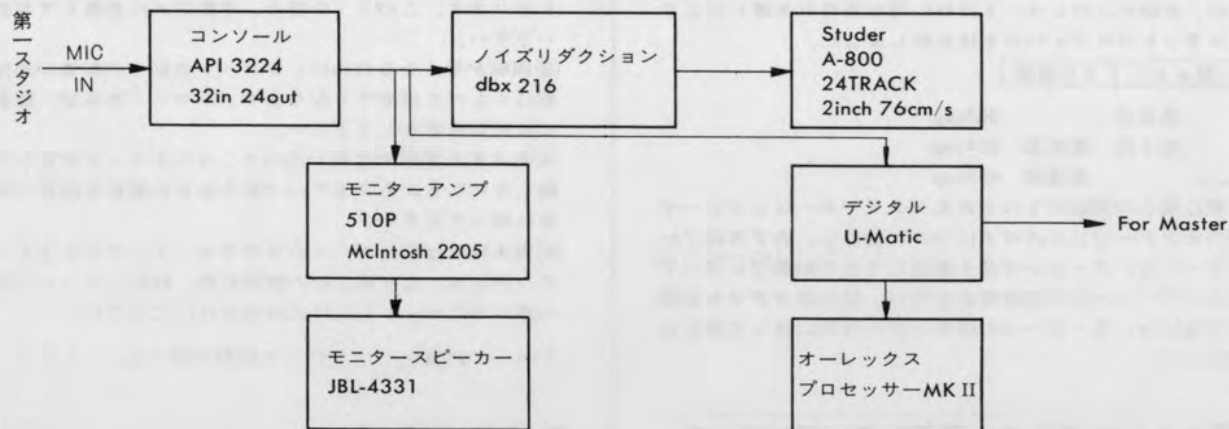
マイク・アレンジ

● E.B..... Line
● W.B. — Speaker — Shure SM-81
 — MIC..... Neumann M-269C
 Line

● Drs
Kick — Zenheizer MD-421
Snare — Zenheizer MD-421
Tom Tom — Shure SM-57x3
Flore Tom — Shure SM-57x1
Hi-Hat — AKG D-224E
Over Top — AKG C-451x2
● EG — Electro Voice RE-20
● Pf — Neumann M-269Cx2
● EPf..... Line
● Trp } Neumann M-269C
● Sax } Neumann M-269C
● Trb } Neumann M-269C
● Fl } Neumann M-269C
● Strings Neumann M-269C
● LPC — Shure SM-57
● Vocal — Neumann M-269C
● Chorus — Neumann M-269C

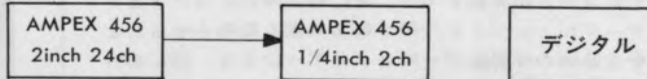






※ エコーマシーン EMT-240 ST-250 使用

使用テープ



現在レコード会社で行われている録音方法は主としてマルチトラック(2インチテープ)の24チャンネル又は16チャンネル録音が普通の型です。以前(DOR-0005 TRACK DOWN45)にも説明をしたと思いますが、このマルチ録音は、最初に楽器の録音を取り(普通編成の大きいオーケストラ等についてはリズムを最初に取り次にパート楽器、弦、コーラス、それにボーカルという順序になります)後でボーカル録音をし、第1工程が終り、次は取ったマルチ24チャンネル(又は16チャンネル)に録音したそれぞれの楽器とボーカルをバランスよくミキシングし、それを2チャンネル・テープにまとめる作業(トラックダウン又はミックスダウンと言います)を行う、この時に出来上がったものが一般に言うマスター・テープです。これをもとにマスター・テープは普通38cm/secが主体ですがハイクォリティーレコードやテープについては76cm/secが使われています。このDOR-0086についても6曲のうち4曲を76cm/secマスター・テープを使用しました)しかし今回は1つの試みとして違う方法を取りました。それはトラックダウンをしながら同時にカッティングを行う方法なのです。この方法をあえて使うことにしたのは第1に、直接することによって1台の機械を間に入れないことにより原音をよりシビアに再生する、第2に1つのテープ工程をはぶくことによりS/Nがかせげること、第3にダイナミックレンジを広く取れるという、3つの利点があげられます。実際には、トラックダウン・ルームのコンソールoutをライン・ケーブルによりカッティング・ルーム・コンソールのINにダイレクトに入れ、カッティングを行ったもので、レベル調整に大きな時間をかけなければならなかったのです。この方法は生産効率が悪く通常レコードでは殆んど使われていない仕様です。もう1つはデジタル・レコーダーによるカッティングをU-maticから直接カッティングを行いました。

各社で発表されているデジタルレコードでもご存じのことと思われる。

この2方式と76cm/secマスターによる方式の計3方式を1枚のLPに同時収録したこと、更にフラット・ディスク、厚手重量盤、ノイマンVMS-80カッティング・マシーン使用という最高のもので挑戦したのがDOR-0086のこのレコードなのです。ミコのボーカルと楽器の響、スキャットと楽器のかけあい等、チェックしながら楽しめる、このレコードがDAMに1枚加ったことでオーディオファンに嬉しいプレゼントとなると思います。

東芝EMI音響技術部 渡部 喜久

■DAMハイクオリティ・レコードについて

最近のデジタル・オーディオ技術とその周辺技術の急速な進歩でハード、ソフト共に著しく多様化しており、PCMテープ、デジタル・オーディオ・ディスク及びビデオ・ディスク等による新しい記録媒体の開発と実用化に併い、多種多様なソフトテクニックと音楽へのアプローチの仕方が一段とエスカレートして来ております。同様にいかにより高い音楽性とオリジナル演奏の忠実なトータル・サウンドを完成させるか、ソフト技術以上に製盤技術の開発もここに来て厳しく、高密度・高品質化の一途を辿っています。その中で特にビデオ・ディスク及びデジタル・オーディオ・ディスクの開発技術によって得られた製盤の周辺技術とノウハウを最大限に駆使し、従来のマスプロの仕様とは性格の異なる、手作りのプロセスを経て制作されたものが今回のDAMレコードであります。

オーディオ・マニア諸氏はもちろんのこと、音楽ファンの皆様も年2回企画されているDAMレコードについては、常に新しい試みがなされ、前向きな姿勢で技術的テクニックとそのトーン・キャラクターを追求し、より忠実な音楽の再現を制作ポリシーとしている意図を理解していただいていることと思います。

そこで今回のハイクオリティ・レコードの特徴を述べてみます。

レコード(フラット・ディスク)形状

一般レコード形状は、音溝部を保護する為にレーベル部とレコード周縁部にグループガードをほどこして、音溝部が直接に接触しない様に厚くなっております。これが一方では、レコード再生条件や音質への影響を考慮した場合必ずしも望ましい形状では無いようです。

例えばa)グループガードの傾斜している溝部に再生針先が正規な溝壁面接触しないままトレースする為に、異状音の発生やノイズの発生原因となります。b)ピックアップを下す時ヘタをすると、針先が滑って音溝部までジャンプする事もありキズの原因となります。c)ピックアップによっては、カートリッジの底がグループガードに接触することもあります。d)音質への影響としては、断面形状から解るように、ターンテーブル・シートと音溝部の密着性が悪くなり、レコード個有共振を起こしやすい状態にあると云えます。

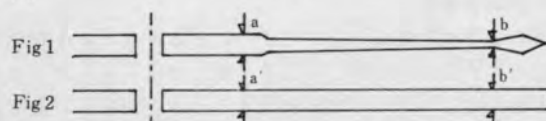


Fig 1 一般のレコード a - b = 0.6(mm)

Fig 2 新フラットレコード(ディスク) a' - b' = 0.2(mm)

御存知のようにステレオ音溝は、水平振幅は左右信号の和(L+R)、上下振幅は左右信号の差(L-R)として録音・カットングされており、特に本レコードのように通常のレコードより+5dB程もハイレベルでカットングされた複雑な音溝の再生は、より以上のカートリッジの振動エネルギーでレコード盤を烈振させ、レコードの個有共振によって音質への影響が十分に考えられます。

共振はマスとコンプライアンスの積で表わされますから、レコードの個有共振はレコードを厚く重くすることでマス成分を増して共振を下げ、更にレコード平面均一性の精度を上げ、フラット面に形状変更することでターンテーブル・マットとの密着性を大幅に改善し、共振によるレコードとターンテーブル・マットとの間に起こるリアクションを緩和させる事を可能にしました。これにより今までに無いサウンド・キャラクターが得られ、特に中域から低域の分解能を一段とクリアーにして、そのナチュラルな響きはよりオリジナル・サウンドに近いものと確信しております。

ターンテーブル及びターンテーブル・マットの材質、形

状によっても音質の変化があるように、レコード形状、質量によっても音質へ影響するファクターは充分考えられますが、今回のこのレコードは特に再生条件を考慮した上で新フラットプロフィールを採用致しました。

一般レコードとの比較

重量比	30%up
厚さ比 最厚部	15%up
最薄部	65%up

更に偏心の要因の1つであるセンターホールとプレーヤーのセンターピンとのガタについて注目し、先ず市販プレーヤーのセンターピン寸法を調査してその結果でレコードのセンターホールの設計変更を行い、最小限ガタツキを減らす為にセンターホールの径を小さい方向に持って行きました。

■クォーツ・ロック、厚手レコードについて

従来のシンクロナス・ダイレクト・モーターによる大振幅のカットングでは、動的ワウ・フラッター(ダイナミック・ワウ)が少なからず音質に影響を及ぼしますが、今回の“DAM45”では、高精度にサーボされたクォーツ・ロック D,D,モーターとダイヤモンド・カッター針を採用することで、ディスク・マスタリング時に於けるクォリティーを高め、以前にまして余裕のある音溝巾と大振幅にたえられ、たっぷりとしたピッチとディプスがコントロールされるようになりました。

現在のレコードは再生系機能のグレード・アップに伴い、一段とDレンジ、Fレンジ、及びリニアリティ等、大幅に飛躍しています。振幅(P-P) 250μ~280μ、(L-R)、ピーク・レベル+20dB程度のもは数多く高密度レコード化しております。このような高密度レコードの溝波形を完全にトレーシングする為に再生時の技術的ノウハウ、及びそのテクニックがいろいろ考えられ、かずかずのオーディオ誌上でも論じられています。ヘッド・シェル、トーン・アームやターンテーブル・シートの共振問題等々……。たとえば、ターンテーブル・シートを例にとっても、ゴム、なめし皮、ガラス、金属等、変える毎にその音質の変化は確実に差があります。このように再生時の高忠実トレーシングはさまざまな問題が残されています。

それでは、ディスクそのものはどうかと考えますと、一時期、薄いレコードはプレスでの塩ビ成形性が良いとされ話題になりましたが、レコードを厚くする(質量を増す)ことでレコードの共振を下げ、更に再生時のレコードとターンテーブル・シートとの間に起る共振を緩和させることで、中音低域の分解能が一段とクリアーになり、特に深みの有る、伸びた重低音の再現とバランスされたダイナミックなパワー感を充分にお楽しみ下さい。

この種のレコードは、特に安定度の高い盤質が必要とされますが、従来からのプロフェッショナル・レコードで開発した材料をベースに、新タイプの配合剤、熱安定性効果の高い安定剤の組合せにより、一層ゲル化性の改善を図り、また更に新タイプ帯電防止剤による静電除去効果ともあいまって極めて安定度の高い、この厚手レコードが生まれ、リアリティの良いダイナミック・レンジをもつオリジナル・サウンドの再現を可能にしました。

30センチ45回転レコードの取扱いについて

このレコードは、通常の33⅓回転レコードと変った点はありませんが、念のため次のことに御注意下さい。

(1)オートプレーヤー、オートチェンジャーでも使用出来ませんが、ある特殊なものでは完全な自動演奏が出来ないこともあります。このような場合、手動方式に切替えてお取扱い下さい。

(2)回転が早くなるために、レコードの反りの影響が33⅓回転に比べて出やすくなります。レコードの保管、取扱いには充分注意して下さい。

(3)再生する部屋の温度が低いと、カートリッジが正しく作動しないことがありますのであらかじめ室温を15℃~20℃位に保って下さい。

(4)再生時には特にアームのラテラル、インサイドフォースのバランス、及び再生針の摩耗状態、針圧(メーカー指定の重い方にセット)には充分気を付けて下さい。

レコード材質——プロユース材料使用

カットング・データ

Cutting: TOSHIBA-EMI L.T.D AKASAKA

Cutting Date: Oct. 3. 1980

Tape Recorder: Studer A-80MKII

: U-Matic

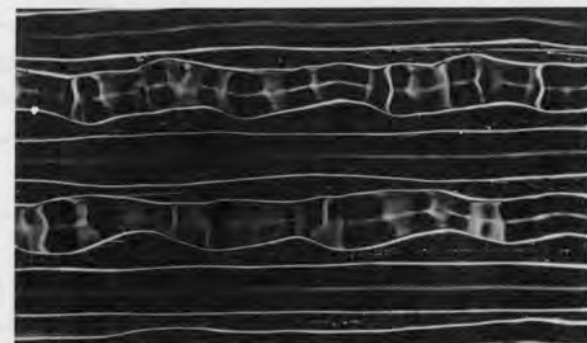
Drive Amplifier: Neumann SAL-74

Cutting Lathe: Neumann VMS-80

Quartz Rock Motor

Cutting Head: Neumann SX-79

Diamond Cutting Stylus



編曲

鈴木宏昌 (A)-1 (B)-3
直居隆雄 (A)-2,3 (B)-1,2

プロデューサー

小山正敏

ディレクター

重実 博

ミクサー

渡部喜久

アシスタントミクサー

藤田厚生

カットング・エンジニア

小林光晴

メンテナンス

伊藤 勲

フォートグラファー

波多健二

デザイナー

板垣 駿

エディター

押山正道

録音場所

TOSHIBA-EMI 1ST S55. 9. 23~24

制作協力

小沢音楽事務所

企画

第一家庭電器DAM

製造

東芝EMI(株)